

速報第6号

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察速報第6号について

このことについて、病虫害発生予察速報第6号を発表したので送付します。

ナ ス

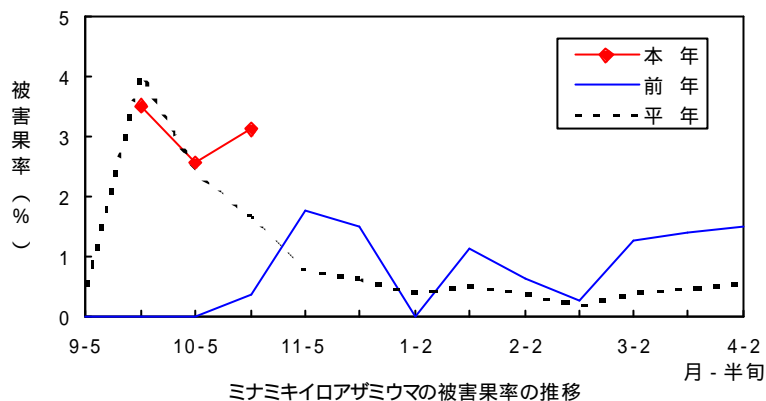
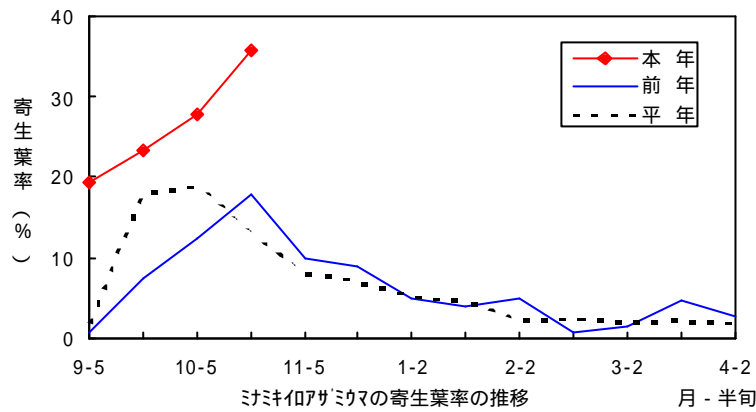
**1 病虫害名：ミナミキイロアザミウマ**

2 発生地域：県下全域

3 発生予想：やや多い～多い（ほ場間差が大きい）

4 速報の根拠

- (1) 本年は、台風対策でビニルを剥いだほ場や台風後の作業の遅れによる防除の不徹底等により、定植後から発生が多い。
- (2) 10月の気温が平年より高く、降水量は平年より極端に少なく推移したことにより更に増加した。
- (3) 11月2半旬の調査では、発生量は平年・前年より多く、ほ場間差が大きい。
- |            |       |                       |
|------------|-------|-----------------------|
| 寄生葉率       | 35.6% | (平年: 12.9%、前年: 18.0%) |
| 被害果率       | 3.1%  | (平年: 1.7%、前年: 0.4%)   |
| 発生ほ場率(寄生葉) | 87.5% | (平年: 57.8%、前年: 87.5%) |
- (4) 今後1か月間の平均気温は平年並か高いと予想されており、今後も平年より発生が多い状況が続くと予想される。



## 5 防除上の注意

- (1) 初発生は、葉脈沿いに現れる食害症状で確認する。葉表では長さ2～3mmの細い白斑が葉脈に沿って連続して生じる。葉裏では3～5mmの大きさの銀白色に光る部分が葉脈沿いのところどころに生じる。
- (2) 卵は葉肉内に産み込まれ、成幼虫は葉裏、一部はガクの下で生息、蛹は土中で蛹化しているため、発生後は防除が困難となる。発生状況をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- (3) 高密度時には、卵～成虫まで各ステージが混在し、葉内の卵から幼虫が、土中の蛹から成虫が徐々に発生してくるので、5～10日後にもう一度薬剤散布を行う。
- (4) 防除は、整枝・剪定、摘葉後に行うと効果的である。また、葉表より葉裏へ寄生するので、散布むらがないように丁寧に散布する。
- (5) 同一系統薬剤の連用は、薬剤感受性の低下を来す可能性があるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (6) 春先の多発生を防止するため、年内の防除を徹底し密度の低下を図る。特に、マルハナバチを放飼する場合は使用できる農薬が制限されるため、この時期の防除が重要である。